

全 員 協 議 会 記 録

令和 7 年 3 月 2 4 日②

【開催日】 令和7年3月24日（月）

【開催場所】 議場

【開会・散会時間】 午前11時30分～午前11時42分

【出席議員】

議長	高松秀樹	副議長	中村博行
議員	伊場勇	議員	大井淳一郎
議員	岡山明	議員	奥良秀
議員	笹木慶之	議員	白井健一郎
議員	恒松恵子	議員	中岡英二
議員	中島好人	議員	福田勝政
議員	藤岡修美	議員	古豊和恵
議員	前田浩司	議員	松尾数則
議員	宮本政志	議員	森山喜久
議員	矢田松夫	議員	山田伸幸
議員	吉永美子		

【欠席議員】 なし

【事務局出席者】

局長	石田隆	議事係長	岡田靖仁
----	-----	------	------

【審査内容】

1 視察報告について

午前11時30分 開会

高松秀樹議長 それでは、全員協議会を始めます。付議事項は、視察報告についてです。最初に、会派みらい21の視察報告をお願いします。

前田浩司議員 会派みらい21の視察報告をさせていただきます。視察日は令和7年1月22日、視察先は茨城県の下妻市です。視察内容は、下妻市では、隣接しているつくば市、土浦市、牛久市の3市と連携して、地域

交通のドライバー不足による交通空白地を解消すべく、デジタルを活用した自家用有償旅客運送サービス、公共ライドシェアを2025年1月27日から実施するというので、そのことについて訪問させていただきました。下妻市は、面積が133平方キロメートルで、総人口は5万7,275人と山陽小野田市と同じような状況にあります。報告事項につきましては、視察先の状況として5点を取り上げて報告します。まず1点目、下妻市における公共ライドシェアの導入前の公共交通の状況と導入に至った経緯についてです。平成27年につくば市を中心に公共交通の広域連携を図る検討会議が設立されて、その後に各市の課題や施策を共有しておられました。本市と同じように、日常生活に必要不可欠な移動手段の確保がかなり困難になってきており、特に下妻市におきましては運転手不足による路線バスの減便やタクシー不足による公共交通空白地の解消に向けて、移動手段の確保のためのコミュニティーバスの導入やタクシー助成券によるタクシーの活用など、いろいろ取り組んでまいりましたが、なかなかうまくいかなかったということで、実績が伸びず実証実験から本格稼働に至っていないという状況にあります。令和6年10月1日から、コミュニティーバスとして下妻市に「つくバス」の乗り入れが決定して、このタイミングで公共ライドシェア事業の幹事市となるつくば市から乗り継ぎ手段の一つの手段として公共ライドシェアの取組を開始されておられます。2点目です。事業の内容については、この事業は自家用車を利用した公共ライドシェアの実施であり、2パターンありまして、朝夕の時間帯は定時定路線運行を行い、日中は利用者からの申込みを受けてエリアオンデマンド運行、いわゆる乗り合い型サービスを提供しております。金額につきましては、下に書いてあるとおりですので後ほど御確認ください。この日中の乗降ポイントは、事業者や市民の声をしっかり取り入れられて、市役所、下妻駅、病院、イオンモール下妻などを経由するということです。続いて3点目は公共で実施することについての問題点についてです。都市部では民間タクシー事業者が主体となって行う日本版のライドシェアが行われるような地域も出てくる中、地方ではなかなか都市部のような需要並びに体力のあるタク

シー会社がないため公共で対応せざるを得ない状況であると考えておられます。公共で実施することについて、やはり、既存のタクシーの事業者との共存共栄が必要である観点から、運行エリアや運行時間帯、料金などの調整が必要でした。公共ライドシェアを導入することによって、地域の公共交通の補完という位置づけで地域住民の移動需要に応えられるということです。4点目は、つくば市、土浦市、下妻市、牛久市の連携についてです。どのように展開しておられるかということですが、二つのプラットフォームをつくっておられます。一つは、「ドライバーバンク」と言いまして、地域を越えてドライバーの募集、育成、管理等、ワンストップで行うプラットフォームになります。この事業は、一種免許を持っておられる方に、二種免許取得を支援することです。つまりドライバーへのステップアップとして二種免許取得を促すことによって、今後、地域交通を担う新たなドライバーの育成にも取り組んでおられます。また、AIのオンデマンドというプラットフォームになるんですけれども、これにつきましては、利用者の予約状況に合わせてAIが最適な運行ルートやスケジュールを実現するプラットフォームになります。5点目は、今後の課題についてです。ドライバーの数は適切なのか、アプリの操作は高齢者にも分かりやすいものなのか、利用者は多いがドライバーがいないなど、いろいろな事業を展開する中でいろいろな課題を見つけていきたいということで、本事業は3年間ほど継続していく中で、市内のタクシー業者の経営状況にも注視し、下妻市にとって最適な施策であるかを調査研究しながら、エリアの拡大について今後検討していきたいということになります。最後、考察ということで、本市の中山間地域や郊外集落等では、人口減少や高齢化の進行により公共交通の利用が減少しており、路線バスの減便は市民の移動手段を直撃しております。高泊地区においては、コミュニティバス、高泊循環線が運行していましたが、利用が低迷していたことから、高泊地区においては当該路線を廃止し、その代替としてデマンド型の交通を導入することになっております。利用者数は若干増えてきているものの、地域の実情や需要に見合った持続可能な地域住民の利便性確保が重要な課題であると考えます。

今回の視察で学んだ下妻市の先進的な取組を参考にして、市民にとって住みやすく魅力的なまちづくりを推進していかなければならないと考えております。以上で視察報告を終わります。

高松秀樹議長 ただいまの視察報告につきまして、質問はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、次に行きます。次は矢田議員、報告をお願いします。

矢田松夫議員 それでは、時間も限られておりますので、視察の目的と考察について報告させていただきます。最初に、滋賀県大津市に2月4日に視察に行きました。今回の視察の目的は、小規模校特認校制度の導入後の実態と学校選択制度の現状についてです。次に考察のところを見ていただきたいと思います。通学区域の弾力運用推進により、学校間の児童生徒間の生徒数規模の格差の平準化を図っていると。それから、多様化する保護者のニーズへの対応により、多くの学校の選択幅が広がってくると。それから三つ目は、自治会活動、地域活動の影響は、これまでどおり地域内の活動ができて解消が図られると。以上のことから、市内を取り巻く環境では、学校間の規模格差が存在している。例えば、有帆小学校区、高千帆小学校区、高泊小学校区における学校選択制について考えていきたい。つまり、もう境がなくなってきていると。学校区域と通学区域もそうです。そういうことを考えていきたいということです。さらに、厚陽小中学校一貫校における特認校制度も同様に、小規模校教育の特色である地域に育んだ教育が実践されているのかも検証していきたいと思っております。二つ目の滋賀県草津市には、2月18日に視察に行きました。これも同じく教育委員会でございます。今回の視察の目的は、一つは学校体育館施設への空調設備について、二つ目は空調方式選択の過程についてのこの二つを学んできました。最後の3番目の考察を見ていただきたいと思います。本市においては、市立体育館のアリーナには輻射式冷暖房、観客席には空冷の特置き型で提案されておりますけれど、コストや安全性、熱源なども検討する必要性を感じました。また、輻射

式であれば競技中の音、風については配慮できるということですが、草津市における中学校の体育館での音、風を体感しましたが、遜色はなかったということです。要は公式競技場であるのかないのかということで、中学校の体育館は公式競技場ではないから、そんなに音、風を心配しなくてもいいということです。それから災害避難場所での効用能力などを含め、設置工場が1か所であるがゆえに、安全性、供給性、あるいは安定性、災害対応、経済性などを考慮しつつ、草津市における空調設備設置工事を参考にして総合的に検討していきたいということです。この写真は、体育館の中に貼り付け型の空調設備をしているということです。草津市においては、全14小中学校を含めて令和6年度、7年度に一気に工事をするために輻射式にできなかったということです。輻射式にするには時間がかかるということでした。以上、2か所についての報告を終わります。

高松秀樹議長 矢田議員の報告に対しまして、質問はありますか。（「なし」と呼ぶ者あり）それでは、全員協議会を終わります。お疲れさまでした。

午前11時42分 散会
